

平成30年度国立市まち・ひと・しごと創生懇話会 議事要旨

1. 日 時 平成30年8月2日(木) 19:00～20:30
2. 場 所 国立市役所第1・2会議室
3. 出席者
(委員)
榎本委員、平川委員、富永委員、細野委員、竹内委員、磯部委員
(欠席委員)
上野委員
(事務局)
藤崎政策経営部長、黒澤政策経営課長、清水政策経営係主事
4. 傍聴者 3名
5. 議 事
 1. 挨拶
 2. 数値目標及び重要業績評価指標(KPI)の中間値報告について
 3. 主な事業の進捗状況について
 4. 「人口減少」及び「地方創生(にぎわいの創出)」に関する意見交換
 5. 今後の予定について
6. 配布資料
 - ・資料総合戦略数値目標進捗よく状況一覧(資料No.1)
 - ・総合戦略重要業績評価指標(KPI)進捗よく状況一覧(資料No.2)
 - ・総合戦略掲載主要事業の進捗状況一覧(平成30年度調査)(資料No.3)
 - ・国立市まち・ひと・しごと創生懇話会 多摩地域と23区データ比較
(中央大学教授 細野助博座長作成資料)
7. 内 容
 - (1) 総合戦略数値目標進捗よく状況一覧(資料No.1)について
事務局より配布資料に基づき、一括して概要説明を行った。(事務局)
 - (2) 総合戦略重要業績評価指標(KPI)進捗よく状況一覧(資料No.2)について
事務局より配布資料に基づき、一括して概要説明を行った。(事務局)
 - (3) 総合戦略掲載主要事業の進捗状況一覧(平成30年度調査)(資料No.3)について
事務局より配布資料に基づき、一括して概要説明を行った。(事務局)

- (4)「人口減少」及び「地方創生（にぎわいの創出）」に関する意見交換について
細野座長より配布資料に基づき説明を行い、委員内で意見交換を行った。

委員

- 「ひらや照らす」の人数はでていますが、「赤ちゃんふらっと」の利用者は年間何名いるのか。2年度前の最初の懇話会時に集計中か調査中だと回答があった。もっと市民にPRしていけば子育てしやすい環境が整っていると思う市民の割合が増えると思う。

事務局

- 市内各所に手をあげてくれた事業所に設置をお願いしており、事業所側に、利用した人数のカウントをお願いするのは難しく利用者数の把握が難しい。

委員

- 以前赤ちゃんふらっとを設置しているお店の担当者に話を聞いたところ、利用者数は少ないと言っていた。もっとPRした方がよい。2年前アドバイスしたことは実施していないのか。

事務局

- 利用者に対しては子育て関係の冊子を作成しているのみで、他は実施できていない。

委員

- 住みやすい国立を作るなら文教地区のブランド力は高い。教育分野に力を入れ学校に通うことで定住化を図るのはよい。以前20～40代の中間年齢層の定着率が悪いとの報告があったので、教育ブランド力を高めたらよい。

委員

- 研究所も含め理工系の学部を誘致したい。

委員

- シティプロモーションとブランドの関係で、3つ思ったことがある。1つ目は、何をPRするかより、誰にPRしたいのか考えるべき。昼間人口か定住人口を増やしたいのかで変わってくる。ブランド力も同じで、子育て層の母親をターゲットにするのか、周辺地区の親子に休日遊びにきてもらいたいのか、それによって予算配分も異なる。いろいろPRするのではなく、きちんと行政の中で意思決定しないといけない。

2つ目は、情報として何をPRするか考えるべき。PRは一つに絞るべき。国立はブランド力はあるが、一点突破型に負けてしまう。

3つ目は、受け取る側が受け取りやすいように情報を加工すべき。公平・正確さを重視してプラットフォームに出してしまいがちだが、特定の施策について特定のサービスがあり、特定の人もいて、そういうコンタクトポイントに対していかに受け取りやすい情報を届けるか考えなければ、K

PIに還元されるレベルにはなかなか至らないと思う。

以上3点を踏まえて、国立市のブランディングのピークは駅舎再建ではないか。2020年は話題が多い、メディアに埋もれないPRを戦略的にすべき、ストーリーの構築が必要。

委員

□企業数と企業誘致数が評価の指標になっている。国立の創業数は近隣に比べて少ない。駅前家賃が高くコストパフォーマンスが合わない。小平市は起業塾等を実施して実績を出している。やり方を考えた方がよい。一橋が商学部をもっているのもっと地域活性化に出てきてほしい。

委員

□文系はあるが理系が少ないため、競争するところが少ないのではないか。

委員

□2015年に国勢調査が実施され、2045年までの人口予想データが公表されている。国立は人口については捨てたものではない。また30年後、国立の人口予想は2015年よりわずかにマイナス1.5%だが、八王子市は16%減ってマイナス9万人と予想されている。ただ年齢別構成は変わってくる。実際、八王子市はどこまで人口が減るのか。多分、予測の要素に入っていない大学の都心回帰化と隣県の相模原市の2027年リニア開通がある。結局、そのような要素のない国立は市内在住の通学者の割合を増やすことが有効では。

一方、昼夜間人口比率は97%くらいで、通学者は流入超過となっている。国立の通学者の市内在住率は30%で八王子市は60%。

委員

□人口について、きめ細かく政策人口を考えた方がよい。土地利用が大切。精密に調査して実態としてどう利用されていてこれからどうしていくか。南部地域はそれなりに土地区画整備をしているが、未利用地が多い。そのまま生産緑地だったりする。土地利用を誘導していくことは効果がある。ミレニアム世代の住まい方の変化、持家をもたない世代について考えるのも一考。

委員

□若い世代の女性が効率よくビジネスをやって稼げないかと考えている。

委員

□働き方としては細野座長の三角形と対立してしまうが、リモートワークが進んで距離があっても働けるようになる、職場と家の距離を縮めるのではなくて、住環境が良くなっていくシナリオもある。週末農業や都市の中に緑をどうもちこむか。国立は緑が残っていることは強み。緑が住んでいるところに近づけば、必ずしも自宅と職場の距離が縮まることだけが優先するわけ

ではないとも思う。

委員

□総務省主催で自治体向けシンポジウムがあり、そのテーマがテレワークだった。分野によってはテレワークはあり得る。働き方は確実に変わってくる。そもそも会社職場に出勤しなくてもよくなるのではないか。

委員

□地域包括ケアシステムが重要で、今年度から本腰をいれているので力を注ぐべき。高齢者の引きこもりを防ぐことを重視することも必要。

委員

□空家について所有と利用を分離することが求められている。その結果、休眠不動産の流動性が高まる。

委員

□子供から高齢者までの地域包括を目指している。引きこもりの高齢者対策をするべき。また相対的子どもを含む世帯の貧困率は全国平均で17%くらいで、取り組む必要がある。

委員

□国立市の場合、地域包括は先進的に取り組んでいる。公共施設の統廃合の検討の中で、近隣住区論的にユニットごとの考え方をもとに、地域包括をどう埋め込んでいくかをまさに考えている。エリア内でバランスをとって、不足があれば、それを補完するのは公共交通の充実であろう。地域を更新していくタイミング。例えば、富士見台地域。公共施設の建て替えの時期に合わせていかに予算をかけずに行えるか考えている。

委員

□生産緑地はそろそろ転換されるのか。どういう形で企業に還元されるか考えるべき。

委員

□コンパクトな市はメリットがある。強みを活かすべき。そのためにはビジョンが大切。

委員

□駅舎はよい、観光施設や赤ちゃんふらっとと地域包括の窓口等を置くといいかもしれない。

委員

□国立市は2020年までは交流人口は増える。2020年をのりこえその後ソフトランディング

グをいかにするかが重要。国立は大学があるので毎年一定の人口はくるがそこを増やすのは現実的ではない。外国人観光客等をどう増やすか。増やさないのであれば、観光客が利用する金額を上げるような取組を考える。

委員

□人を多く住まわせること、特に学生 4 年間の後の定住が重要。2 年前の懇話会で人口離脱は大学卒業ポイントと聞いた。住宅はバランス良く配置されていることが重要。賃貸住宅は住まう人を特定してしまい、市内において家族構成や住まい方が変わるのに追いつけない。住宅を増やす時代ではない。

委員

□東京 R 不動産でひとつの考え方が変わった。自ら物件を厳選してリノベーションしてネットで販売する。そこには不動産に対する新しい観点がはいつている。不動産事業をどう考えるか、今後行政は意識的に取り組むことが必要かもしれない。

委員

□市民農園など農地を貸し出して、人の交流を促進しては。そうすると、農家の収入も地面も保たれる。

委員

□農作業は老若男女関係なくヒーリング効果が高い。

委員

□高齢者の視点から都市再生から考えると、農地の貸出しを促進するためくにっこにシルバーパスを導入するのはどうか。

委員

□今は時間の奪い合い。どの企業も、寝る働く以外の少ない 1 日の時間帯でどのようにアピールできるかが重要で、スマホを利用した広告の作り方に力をいれている。そのような中で都内ではなく市に来る価値があるかを考える。

委員

□国立駅の広場はまちの顔。利用について人口の鍵になるので考えてほしい。

委員

□人がにぎわうのは国立駅周辺一角だけ。矢川商店街は寂しくなった。

座長

傍聴人はなにか話し合っしてほしい議題はあるか。

傍聴人

国立に遊びに来る価値があるかどうか聞いてみたい。

委員

おしゃれな飲食店があれば行きたいと思う。買い物はない。学生が遊べる場所があつてほしい。

委員

以前国立に引越した際感じたのは国立に外国の雰囲気があり、計画的につくられている感じがする。画廊があり音楽がある。

委員

文教都市で憧れが高い。

委員

年齢構成は22～24歳が多く、その上は男性は減るが、女性は残り流入する。だが女性も30～40歳は家賃が高いので引越してしまう。定住してもらえるよう国立のイメージと不動産をブランド化したらよい。

(5) 今後の予定について

1. 議事録について要点記録で委員に確認後、HP公開予定
2. 今年度の会議はこれのみになる。次は来年開催予定。
3. 来年度まで計画があり、再来年度最終評価を行うため、2020年度までは会議を存続したい。委員の継続を改めて依頼する予定。

以上